

平成30年度 都農町立都農南小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

評定 「4：たいへんよく取り組んでいる」「3：よく取り組んでいる方である」「2：少し改善(努力)することがある」「1：まだ改善(努力)しなければならない」

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント ○結果の考察・分析 ■改善策等	自己評定	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
学力向上	① 学力向上を目指した授業の工夫・改善がなされている。	○ チャーリー検定(月に一度、全校一斉に行う小テスト。昨年度までは計算のみ)に加えて、今年度は漢字を実施した。漢字の 合格者数 6月…96名、10月…86名、12月…136名と増えた。児童の学習に対する意欲を向上させることができた。 ■ 3年目の実施に関して、新たな内容を盛り込んでいく必要がある。	保護者…1.8 児童…2.8 職員…3.5	3.1	○ チャーリー検定が目標を立てて取り組むことや意欲向上につながっていることは、いい傾向だと言える。計算のみならず、漢字も実施されその結果も良かったということ、達成した喜びがまた次の目標につながると言える。チャーリー検定をクラスごとと合格者数を出すのもっと意欲が出るのではないか。これからも楽しんで勉強することができるようになるといい。
	② 家庭学習で、学年に応じた時間と内容を学習する習慣を育成している。	○ 高学年は、家庭学習の時間の目安になっている1時間30分を確保するのができていなかった。 ■ 宅習1ページを宅習1ページ半にして、自分の苦手なところを補習する。それでも1時間半に満たないときは、読書をしてその時間も学習時間として計上するようにする等の指導を行っていく。			○ 低・中・高で差があるのは、家庭での取組の差であると思われるが、家庭学習は、保護者が子どもと一緒にやって取り組むことが一番大事。親子の話し合いを増やす工夫が必要だ。家庭学習の時間は習い事をしていると確保が難しいという声も聞く。懇談会などで、この話題でのそれぞれの家庭の意見を聞く機会を設けるとよいのではないか。やはり、小学校からの勉強の習慣付けは大切である。
	③ 読書に親しむ環境作りを進め、読書意欲を高める工夫がなされている。	○ 朝の読書、すきま時間(少しの空いた時間)の活用、教育相談の時間(教育相談を受けていない時間の活用)等、10分以上の読書時間は、学校では確実に確保できている。また、図書室からの学級への常設の文庫貸出、町民図書館からの学期1回の学級単位での貸出等も行っており、読書環境は整っている。 ■ 「10分間読書」のとらえ方が、家庭で見えにくい部分があったと思われる。家と学校、それぞれでの10分間読書を分けて明記する等、図書貸出の工夫としては10月～12月に読書ビンゴを行い、低中学年の意欲は向上した。しかし、学年差がある。			○ 本を読むことで楽しみや喜びを見つけられるようになってほしい。幼いころからの家庭内での影響力ともいうべきもので個人差が出てくるのではないかと思う。学校は、それらに対してよく努力をしていると思う。また、各クラスへの文庫貸出(学校図書及び町民図書館の)もよいと思う。読書環境は整っているとのことだが、一方で、学校の図書室はどのような状況か(古いもの、新しいもの、人気の本等)?。そして、どんな本を読んでもいけばよいか、学年に応じた内容の提示がなされることよいのではないか。これからも学年差がなく、全児童の読書意欲が高まっていくように努めてほしい。
豊かな心の育成	① 「気持ちのよいあいさつ」「相手を思いやる言葉遣い」の指導がなされている。	○ あいさつや言葉づかいについては、児童の意識と教師・保護者の意識(できばえ度)に違いはあるが、概ね良好。 ■ よいあいさつと言葉づかいを示したり、よくできている子を紹介したりして、周りから見ても「よい」と感じられるあいさつや言葉づかいができるようにしていく。(児童の意識を高めていく。)	保護者…3.4 児童…3.6 職員…3.4	3.1	○ 登下校時のあいさつは、元気な声で返ってくる。校外でのあいさつはよいのだが、校内(学校を訪れたとき)でのあいさつは、ほとんどない。こちらからしないと返ってこない。そして、上の学年になるにつれ、あいさつの声が小さくなっていくように感じられる。元気のよいあいさつは南小の伝統であり、それを今後とも継承していかなければならないと思う。あいさつは、まず、大人が見本にならなければならない。
	② 好ましい人間関係を育てる指導がなされている。	○ 毎月の「心のアンケート」を生かした教育相談を綿密に行うことにより、児童の様々な悩みを把握し、それらに対応していくことができた。具体的なデータとしては、「仲のよい 友達があまりいない」と感じている児童が6%いることを受け止める必要がある。(保護者も仲のよい友達の名前をあまり知らないとする答えが9.3%だった。 ■ 子どものようすや悩みについて、学級懇談会等でも話題になり、親子の会話が増えていくよう学校での様子やよい行い等を機会をとらえて知らせていくようにする。 ■ 教師からの声かけがすべての児童に対して行っているよう、授業中や係活動中、休み時間など、あらゆる場面で声かけを心がけてゆかなければならない。			○ 「心のアンケート」の活用により、いじめなどの問題を未然に防ぐことができていと感じられる。今後も教育相談を十分にを行い、児童の様子を把握することに努めてほしい。「仲のよい友達があまりいない」児童が6%は、少し気になる。もし「友達がほしいと思っている。」のであれば、手を差し伸べてほしい。 ○ 南小では、問題とされるような事例は起こっていないか。いじめと言えるほどのものではなくても、言葉の暴力と言えるようなものなど注意して行ってほしい。 ○ 個々の児童の実態は実に様々だと思う。中には、自分の思いをうまく出せない児童もいると思う。意思表示の大切さも大事にして行ってほしい。
体力向上	① 家庭と連携して、健康的な生活習慣の育成が図られている。	○ すこやか週間を年間3回実施することができ、「早寝早起き朝ごはん」を意識づけることができた。結果を学校保健委員会で伝えることができたため、2月参観日の懇談会で全保護者に伝える予定である。すこやか週間の集計を担当に知らせ、個別に指導することができた。また、給食の残菜を減らすことができた。給食当番も整然と運搬・配膳ができるようになってきた。 ■ 生活習慣の育成には家庭の取組の差があり、保護者への啓発が課題である。(来年度の学校保健委員会のテーマにする計画である。)	保護者…3.5 児童…4.0 職員…2.8	3.4	○ 家庭との連携は、非常に難しい面があると思う。無関心な家庭も増加しているのではないかと感じられる。だが、生活習慣を整えることは、学習の効果を上げていく上でも大切だと言える。やはり、生活習慣の育成は、家庭の協力なくしては成り立たないものである。あらゆる機会をとらえて啓発するようにしてほしい。 ○ 給食で、苦手なもの、嫌いなものが出たときに、子ども達はどのようにしているのか気になる。また、食物アレルギーをもっている子どもはどのくらいいるのか。また、休みの日の「早寝・早起き・朝ごはん」ができていのかも気になる場所である。
	② 体力づくりに挑戦する場や時間を設定し、日常的に体力向上に取り組む指導がなされている。	○ 業間時間に縄跳びや持久走などの活動を設定することができた。特に持久走では大会記録を更新することができたので、保護者や児童の評価が高いのではないかとと思われる。 ■ 雨天時の活動の実施等についてあいまいなところがあったので、計画の時点でその対応について考えておく必要がある。スポーツテストの結果は、握力を課題としていることがわかった。日常的に無理なくできる運動を選び、実施する必要がある。			○ 体力づくりの場を設けることにより、その成果として児童の駅伝大会などでの活躍が見られるのだと感じられる。下校時など子ども達の様子を見てみると、元気よく走って帰る姿を見ることがよくある。運動が苦手な子どもがいることも確かなので、楽しみながら、遊び感覚で体力がつけられるようにすることも大事ではないかと思う。 ○ スポーツテストの結果の「A」判定の子どもはどのくらいいるのかなどもわかるとよい。握力の低下は、全国的な問題のようである。対策を継続していくことが大切。
家庭・地域連携	① 学校での授業や毎日のできごとが、家庭や地域に情報として正確に流れている。	○ 学校だよりに関しては、わかりやすく、読みやすい内容にするよう心がけてきた。全戸への配付はもちろんのこと、学校ホームページにもデータを掲載していつでも見られるようにした。学校ホームページのアクセス数は、4月当初が11万件ほどであったのが、2月末で19万件を突破した。また、学校安心メールの加入率を増やすために、2学期途中に個別の再案内を行った。(現在、約85%ほどの加入率) ■ 情報の提供に対して、保護者の意見や反応を具体的につかめていない。それらを収集できるような方法を考える必要がある。	保護者…3.0 職員…4.0	3.8	○ 「学校だより」や「学校ホームページ」により、学校の様子を知ることができるので、これらはとてもよいものだと感じている。今後も、充実させていってほしい。自己評価にもあるように、保護者の意見を聞けるようにする場もあるとよいと思う。「学校ホームページ」に関しては、他校のものも参考にするとよいと思う。「学校ホームページ」に関しては、学校間で差が見られるのも事実。

【次年度の取組について】

○ 先生方、一人一人がそれぞれに一生懸命取り組んでいることが感じられる。そのことを子ども達もしっかり見ていて自分達もがんばろうと思っているのではないかと感じられる。これからも、継続した取組を行ってほしい。そして「知」「徳」「体」の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す取組を進めていってほしい。また、今後、元気のよいあいさつに加えて、「よい言葉づかい」を地域とともに推進していくことも大切だと感じる。